

NEW SONG

新生讚美歌ニュースレター

『新生讚美歌』10年 ～賛美歌選曲から学ぶ～

教会音楽室長 江原美歌子（相模中央）

毎週の主日礼拝の賛美歌は、皆様の教会・伝道所ではどのように選曲されているでしょうか？ 宣教（メッセージ内容）と聖書箇所から、相応しい賛美歌を選んでいく作業は時間を要するものです。キーワードとなる「言葉」からアプローチして、レパートリーの中から選んだり、巻末の聖書引用索引から探したり、それでも探せない場合は、1番から1曲ずつあたり、全節の「ことば」をチェックするなど、また、会衆一人一人や奏樂者を覚えての選曲していくプロセスにあつて、ふさわしい曲がなかなか示されないことも多々あることでしょう。それだけに賛美歌が礼拝の中の宣教、みことばに呼応し、会衆が応答の思いをあわせて賛美するとき、礼拝の中で豊かに祝福を受け、感動を覚えます。

この10年で、この選曲作業を幾度となく繰り返すことで賛美歌レパートリーも増えたのでは？ また、『新生讚美歌ハンドブック』の解説本を通して、曲の背景を知る機会が増え、賛美歌を多角的に捉えることができるようになることでしょう。昨年のことですが、東インドのナガランド連盟結成75周年記念式典参加報告があり、その集いでインドの曲619番「従おうイエスさまに」を選曲しました。それまでも馴染みの賛美歌でしたが、ある解説で、アッサム地方でキリスト教布教活動において弾圧を受けるなか「一人でも従おう」と歌われたとの背景に出会い、「従うこと」の意味が新たに示された賛美歌となりました。一つ一つの賛美歌との出会いから養われた10年であったといえます。

2008年度の「新生讚美歌評価会」の協議を受け、発行6年目には賛美歌検討委員会もスタートし、1曲ごとを評価する取り組みもはじまりました。日本バプテスト連盟の賛美歌評価の判断基準（ものさし）を作っていくという作業です。その中から出された課題として、昨年度は賛美歌内の天皇制用語についての学び、「戦時下の賛美歌」研修会を開催しました。研修会の質疑応答の中で参加者から「聖書研究のように賛美歌のことば一つ一つに目を向けたことがなかった。吟味してよいということも知らなかった。」という発言がありました。「詞」「ことば」から私たちの信仰告白としての賛美歌、今この時代に何を歌うのか、また、バプテストを捉え直す機会となっています。

『新生讚美歌』10年の年、年度末には2回のフォーラム（2/1西南学院神学部、3/21常盤台教会）を計画しました。バプテスト連盟の継続してきた賛美歌編集の伝統を受けて、内容を評価し、この間経験した東日本大震災、諸課題から祈りと叫びを聞きつつ、これからの10年の私たちの賛美の歩むべく方向をともに求めていくときとしたいです。また、まだまだ歌いこなしていないという声も同時に聞かれています。たくさん賛美し、歌い方のアイデアや、小規模教会の課題に応える具体策、礼拝の賛美のありかたを分かち合う時も計画していきます。期待してお集まりください。

礼拝さ・い・こ・う

第9回全国礼拝音楽研修会報告

藤井 秀一（酒田のぞみ/教会音楽専門委員）

全国礼拝音楽研修会も今回9回目を迎えました。これまで、様々な切り口で礼拝音楽について共に考え、学びを深めてきた礼拝音楽研修会。今回のテーマは「礼拝さ・い・こ・う（再考、再興、最高）」です。専門会議において、毎週の礼拝が自明なことになっていないだろうか？という問いかけから、このテーマは生まれました。それは閉塞感を感じる現状を、否定したり変えるのでも、ただ付け焼刃的に新しいことを付け加えるのでもなく、すでに神さまから頂いている計りしれない恵みである「神礼拝」という宝の素晴らしさを、もう一度共に掘り起こし、共に考え、共に喜びたいと願ったからであり、それこそがこれからの「礼拝音楽」のあり方への新しい可能性を拓いていくと考えたからでした。

基調講演は、南光台教会の井形英絵牧師にお願いいたしました。東日本大震災の後、混沌に放り出された教会の歩みのなかで、日曜日ごとの主日礼拝が決して自明ではない場であったこと。「礼拝」とは神の恵み以外の何物でもないと感じかされていった井形牧師の言葉との出会いは、私たちの心を深く探りました。

午後からは「会衆賛美」（山中臨在）、
「会衆に仕える伴奏」（福田のぞみ）、
「礼拝と賛美」（江原美歌子、藤井秀一）

の各分科会が行われ、時間が足りなくなるほど楽しく充実した学びとなったようです。

わたしは「礼拝と賛美」の分科会に出席しましたが、最初に「礼拝」は自明ではないということ、グループごとにそれぞれ分かち合ったとき、皆さんがそれぞれ語られた礼拝への思いに心が震えました。また、各教会の主日礼拝プログラムからお互いに学びあうことが出来、あらためて自分の所属する教会の礼拝プログラムのユニークさ、素晴らしさに目が開かれるような珠玉の時をいただきました。

最後の派遣礼拝は詩編147篇1-7を基にした礼拝式とし、たくさんの賛美が捧げられ、「民の祈り」を分かちあいました。メッセージでは、日曜日に家族以外誰一人集うことのない礼拝を捧げてきた酒田での開拓伝道所の現場の証とともに、今、わたしたちが礼拝を捧げるためにこうして集っている現場は、無条件に神の恵みに満ちている現場であることを語らせていただき、「礼拝さ・い・こ・う（再考、再興、最高）」というテーマのもと研修会を祝福の内に終えることができました。

（参加人数は91名、中国四国連合からは70名、他連合から16名、他スタッフ）

～「会衆賛美」分科会 概要～

講師：山中臨在（浦和）

1. 賛美歌について

・「題名」と「曲名」

「題名」：賛美歌楽譜の左上に表記。
一段下は作詞者名。

「曲名」：賛美歌楽譜の右上に表記。
すべて大文字表記。
一段下は作曲者名。

・「韻律」（ミーター）

賛美歌の楽譜の右下に書かれている数字群。その歌詞の音節の数（必ずしも言葉の数ではない）である韻律を表す。同じ韻律のものであれば、歌詞を別の賛美歌の曲で歌うこともできる。なじみのない賛美歌を、同じ韻律のなじみのあるメロディで歌うことが可能となる。

・賛美歌を「どのように」歌うかの計画。

説教者の思い、礼拝の流れ、気温や、会衆の年齢層、時刻、等様々な要素を考慮して、賛美歌の速度や強弱を考える。歌詞の意味は十分に理解されているかの吟味。

2. 著作権

楽譜の無断複製（コピー）は違法。原則的には「いついかなる時も」許可が必要。使用料は曲によって無料のものから1万円を超えるものまでさまざま。

3. 礼拝の計画

A：説教は何か？ どこへ向かおうとしているのか？説教内容に沿った賛美歌。

B：教会の会衆はどんな人か？ 高齢者が多いのか子供が多いのか。楽譜に書かれている賛美歌の調（キイ）は高すぎるか低すぎるか、変更する必要はあるか？そのための準備はできているか。

C：どんな流れ、どんなストーリー？

一つの賛美歌を速度を変えたり、スタイルを変えたりして、ストーリーに合った流れを作る工夫も。

計画における、音楽チーム（牧師や音響、照明係、PP担当の人なども含め）の打ち合わせやリハーサル的重要性。

4. 会衆賛美の豊かさ

A. 賛美とは？

「主を賛美するために民は創造された」
（詩編102:19）

賛美することは神の目的。以下、詩編117:1、フィリピ2:11、歴代誌下5:13などを参考。「民全体」の賛美。賛美の中心は会衆賛美。

B. 豊かさとは？

a) ユニゾンかハーモニーか？

音が多くなると豊かになる。しかし、多いだけで調和のない多声は豊かでない。皆が参加しなければ豊かでない、心を合わせないと豊かでない。

b) 「決められた」ジャンルか、「あらゆる」ジャンルか？

「好きな」ジャンルを「礼拝に適した音楽」と決めていないか？

c) オルガンかピアノか？ 他の楽器は？

楽器の用い方の工夫。「個人の趣味」に陥っていないかの確認。

み言葉と賛美は、一個人のものではない。一人では知ることのできない豊かな恵みを共同体の中で教えられ、賛美に導かれる。伝統的スタイルの中にある、育まれてきた信仰告白を知り、また若者が置かれている音楽的状况を知り、共に祈り、考えていくことこそが大切である。

5. 賛美歌の選び方

- ・「聖句引照索引」、「用途・項目索引」、目次に掲載の「項目」欄の活用（『新生讃美歌』も他派賛美歌も）。
- ・教会暦から選ぶ。





『新生讃美歌ハンドブック』
もう、お読みいただきましたか？
嬉しいお便りを頂きました

ハレルヤ。主の御名を賛美します。

『新生讃美歌ハンドブック』、私も活用させていただいています。

地域の賛美歌コーラスグループに新たにメンバーとなられた方のために、『新生讃美歌』を注文いたしました。

その際、ちょうど出来たばかりのハンドブックのことを教えていただき一緒に注文することができました。

活用方法としては、

私自身、賛美歌の背景の出来ごとを知ることができ励まされています。

コーラスグループのみなさまには、賛美歌が生まれた出来ごとをお伝えし、また、遠い昔に出来た賛美歌ではないことから、その出来ごとが、より身近に感じていただけています。

さらに、作品の背景を拝読することにより、知らない賛美歌を賛美してみたい…、という思いも起こされています。（多摩ニュータウン 憩いの家教会より）

『新生讃美歌ハンドブック』を礼拝前の備えの時間で活用しています。

その日に歌われる賛美歌の背景や解説、歌い方などを紹介して礼拝に臨む時、賛美する際に思いを込めて歌うことができます。会衆の皆さんから喜ばれています。

（鮫教会より）

祈禱会での賛美の前に曲の解説をしています。よきディボーションのときとなります。（志村教会より）

その曲ごとにストーリーがあり引き込まれていき、1冊をあっという間に読み終えました。（常盤台教会より）



教会音楽室から・・・

編集作業の中で、たくさんの連盟に連なる作者の皆様、一人一人に連絡し直接お話しを伺うことができました。たくさんの中から一つご紹介したいのは大谷レニー氏の解説です。これまで日本バプテスト連盟の教会音楽のリード、賛美歌創作運動の推進を長きに亘り担ってこられました。教会音楽、音楽の専門家の立場から、また、礼拝、日本の文化、会衆賛美に相應しい詞と曲の組み合わせをよく考慮されて作曲してこられたことを、この解説文を通して教えられました。ご一読されますようにオススメいたします。

教会音楽室からのお知らせ

2013年度は、『新生讃美歌』（2003）発行10周年です！
新生讃美歌フォーラム、第10回全国礼拝音楽研修会を開催
どうぞご予定ください！

2014年2月1日 新生讃美歌フォーラム（西南学院大学神学部）

2014年3月21日 新生讃美歌フォーラム・第10回全国礼拝音楽研修会
（常盤台バプテスト教会）